

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立三浦小学校

1 自己評価書

教育目標	郷土を愛し、夢や希望を持って、たくましく生きる三浦の子の育成					
基本方針	「とどめおかまし三浦魂」の精神を継承しながら生きる力を育成し、新たな時代に対応できるたくましい、三浦の子の育成を目指す。					
本年度重点目標	1 活力ある学校づくり 2 地域とともにある学校づくり 3 ぬくもりのある学校づくり 4 健康で安全な学校づくり					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A C	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A C	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A C	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A D B	C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A D D	C
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
	<p>(成果と課題)</p> <p>○学力調査の結果から、児童の学力や学習状況の傾向を把握することができた。得られた結果を基に、授業改善や学習状況の改善・充実に更に取り組んでいきたい。</p> <p>●授業改善については、児童と教師のアンケート結果に差異が見られた点があった。教師の意図がしっかりと伝わるよう改善を図りたい。</p> <p>●読書活動についての保護者・児童の評価が低かった。また、読書量について、児童間の差が大きい。更なる取組の工夫が必要である。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・全国学力・学習状況調査や市標準学力調査の分析を基に研修を深めることで、個々の児童の資質・能力の向上に努める。また、EILSの効果的な活用も併せ、授業の改善・充実に努めていく。</p> <p>・読書活動の充実について、みきゃん通帳の活用や魅力的な本の紹介等を通じて、引き続き読書意欲の向上に努める。</p>					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
③		基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A B A	A
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	A C	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	A C	
<p>(成果と課題)</p> <p>○全体的に高い評価である。児童の気になる言動等について、全教職員が連携して児童理解に努め、問題の早期解決に取り組むことができています。</p> <p>●自己肯定感、自己有用感についての児童アンケートの結果が低い評価となっている。教師アンケートと比較しても差が見られ、効果的な取組の工夫が必要である。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・学校行事や児童会活動等で一人一人の児童に活躍の場を与えたとともに頑張っている姿を各種通信やホームページ等で紹介することで自己有用感を高めていく。</p> <p>・児童の成長した姿や努力している様子を保護者に伝えることによって、家庭と連携して児童の自己肯定感の向上に努める。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A B	A
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○おおむね時間外勤務が80時間を超えることなく勤務することができた。より効率的に業務を進めることで、ワーク・ライフ・バランスの充実を目指したい。</p> <p>○報告・連絡・相談に努め、互いの業務を確認したり、支援したりすることで円滑に業務を進めることができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・今後も継続して全教職員が一体となって共通理解・共通実践を心掛け、チームとして課題に取り組み、より充実した教育活動が行えるような体制づくりを目指す。</p> <p>・児童との触れ合いの時間や業務の充実を図りながら、ワーク・ライフ・バランスを実現できるよう、教職員の意識改革に努める。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
			②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	
③	来校・相談体制	保護者や地域の方々から来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○地域学校協働活動推進員との連携によって、地域人材の活用について連絡・調整を進め、校外活動や地域学習を効果的に実施することができた。</p> <p>○学校応援ボランティアの充実に努め、学校応援ボランティアと見まもり隊との統合を行ったり、プール監視等新たな活動を取り入れたりすることができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>・学校応援ボランティアの活動がより地域に浸透していくよう、周知や広報の仕方を工夫していく。</p> <p>・引き続き、学校の取組や児童の活動をホームページや各種通信等で発信することで、地域に親しまれ、信頼される学校を目指す。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満